

富岡儀八先生の御逝去を悼む

本学会評議員、富岡儀八先生は、平成3年6月20日、肝不全のため赤穂市民病院にて急逝された。享年66歳であられた。

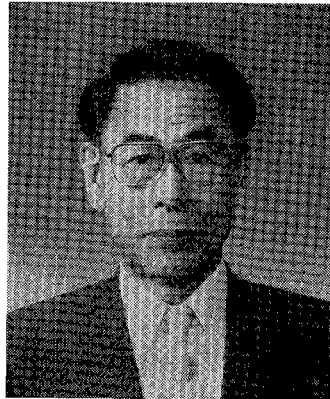
富岡先生は、大正13年11月11日兵庫県赤穂市御崎でお生まれになった。昭和19年9月兵庫師範学校本科卒業後、戦後の混乱期の中、小学校教諭を続けながら、立命館大学文学部地理学科に学ばれた。昭和25年3月同大学卒業後、同大学院経済学研究科修士課程に進学されるとともに、兵庫県立赤穂高等学校教諭として郷里で教壇に立たれた。交通不便な当時であって、京都と赤穂を往復する厳しい生活を続けられた。さらに、昭和31年4月から兵庫県立龍野高等学校に移られ、同40年4月より大阪商業大学専任講師として大学に勤められることとなった。昭和42年4月助教授に、同50年4月教授となられ、同62年9月から平成2年10月まで、商経学部長として、大学教育、研究制度の充実・推進に大いに尽力された。

また、郷里の赤穂市では、教育委員として後進の教育・指導に労力を惜しまなかった。「赤穂市における歴史・地理学研究者のよき指導者として郷土文化向上に貢献した」業績を評価され、昭和55年3月、赤穂市塩谷賞を受賞されている。

先生のライフワークである「塩道」の御研究は、『塩道と高瀬船——陰陽交通路の発達と都市の構造変化——』（昭和48年古今書院刊）、『日本の塩道——その歴史地理学的研究——』（昭和54年古今書院刊）の2大著に結実している。なかでも『日本の塩道』によって、昭和54年3月文学博士（立命館大学）の学位を取得され、さらに、同書は同年11月、第33回毎日出版文化賞に選定された。また、同書の内容は、岩波新書『塩の道を探る』（昭和58年岩波書店刊）によって広く一般に知られることになった。

先生は、研究テーマを単に「塩道」に限ることなく、広く都市、商業、交通など多方面にわたって展開されている。その御業績は、『地域の研究——産業と都市と交通の地理的分析——』（昭和55年孔文社刊）において、十二分に窺い知ることができる。

先生は、『日本の塩道』を刊行された後、中国大陸の塩の移送問題にも興味を持たれ、数度にわたって中国各地を歴訪、膨大な資料を収集してこられた。



昭和60年新疆ウィグル自治区、昭和61年四川省、雲南省、昭和62年山東省、江蘇省、福建省、昭和63年山西省、陝西省、甘肅省、平成2年江蘇省、浙江省など、ほぼ中国全土を踏査され、いよいよその成果を著書としてまとめる段階になっておられた。その一部は平成元年11月奈良大学で開催された人文地理学会・日本地理学会合同大会において、「中国塩田の構造分析とその歴史的意義——日本塩田の祖型を探る——」と題して発表されている。この御発表が、先生最後の学会発表となった。

先生の研究に対する情熱は、60歳を過ぎてからもなお衰えることなく、ますます盛んであられた。大学と御自宅（赤穂市）を往復7時間もかけて通勤され、その電車の中で原稿の執筆・校正をされていたとお聞きしている。また、毎夏30日～40日にわたって日本全国を踏査された折の苦労話も、しばしば語られることがあった。最近では、中国大陸の塩の移送研究に並々ならぬ精力を注がれ、学部長在職中にもかかわらず、二度にわたって訪中された。その二度目の訪中後、急に体調を崩され、入院治療の結果もむなしく、急逝されることとなった。

よく御自身、「わしは、これといって趣味はない。」とおっしゃっていたとおり、研究一筋に生きてこられた先生であった。「中国の塩道」を解明しようとの研究半ばであっただけに、さぞかし御無念であつたろうと御推察申し上げる。先生の御冥福を心よりお祈り申し上げる次第である。

（原 秀禎）